SSCオフセット新聞輪転機

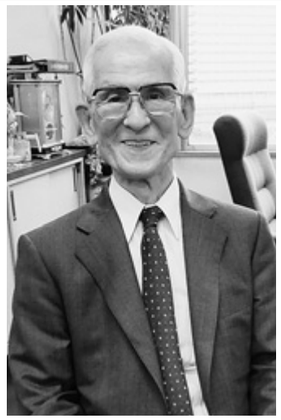
日本新聞印刷の社屋１階で長年活躍しているオフセットカラー半裁輪転機。印刷速度は最大で１時間に25,000部、また１／４裁幅（１頁幅）の用紙を使ってブランケット２頁の印刷も可能です。印刷頁数はブランケットで最大16頁、タブロイドで最大32頁の印刷が可能です。色はブランケットであれば２個面フルカラー（４色刷り）＋２個面特色（２色刷り）まで、タブロイドであれば４個面フルカラー＋４個面特色の印刷が可能です。チョッパー折りはB５サイズ16頁までの折りだしが可能です。

オンデマンド印刷機 bizhub PRESS

日本新聞印刷の３階、制作部内にあるデジタル印刷機。「1200dpi×８bit」の高解像度で、オフセット印刷に限りなく近いカタチでカラー画像を印刷することが可能です。文字の印刷も精密なアウトライン処理機能により、高品位なディテールを再現できます。生産性に関しては、カラー機がA４で71枚／分、モノクロ機に至っては125枚／分の印刷速度を誇ります。また、オンデマンド機ならではの機能であるバリアブル印刷で、宛名や連番等の１枚ごとに内容の差し替えた印刷が可能となります。

お客様の笑顔こそが原動力

～新聞印刷界のレジェンド～ 稲垣社長インタビュー



代表取締役社長　稲垣　亘

【プロフィール】昭和８年12月13日生まれ。昭和15年亀戸第一小学校入学。昭和21年埼玉中学校入学。昭和24年日本新聞印刷株式会社（当時は全国新聞情報農業協同組合連合会）に入社。昭和47年営業部次長、昭和56年営業部部長、昭和60年取締役営業部部長、平成３年常務取締役を経て、平成９年代表取締役社長に就任。

Q：日本新聞印刷の創業の理念などについてお聞かせください。

昭和28年８月25日、初代代表取締役社長の白川福太郎を中心とした当時の幹部が全国新聞情報農業協同組合連合会より工場の設備一式を買収して株式会社日本農業新聞印刷所を設立し、昭和32年１月、社名を改称して日本新聞印刷株式会社が誕生しました。創業時は社員が１２０名程おり、「全てのお客様と全ての従業員のために良いものをつくる」を合言葉に新聞や雑誌の印刷を行ってまいりました。

Q：日本新聞印刷の発展の歴史について教えてください。

昭和28年から昭和57年の約30年間は港区芝公園の地で新聞活版印刷を行っておりました。活版印刷はＤＴＰと違い、製版するまでの工程が非常に多く、営業部、工場管理部、新聞製版部（文選、植字、大組）、鋳造部、印刷部、そして私が所属していた雑誌製版部といった風に、部署も人数も現在よりもずっと多く、威勢のいい職人さん達も大勢いて社内は常に活気に満ちていました。昭和57年には現在の港区芝浦に新社屋を建設し、同年10月に移転いたしました。移転に併せて印刷設備の一新を図り、その時代では最新のオフセットカラー半裁輪転機を導入いたしました。当時はほとんどの同業他社にオフセットカラー輪転機がまだ導入されていない状況で、当社で輪転機お披露目パーティーを開き２００人近いお得意様と同業関係者様にお集まりいただきました。

Q：創業時の苦労話で何か印象的で覚えていることはありますか。

創業時は仕事が溢れており、今より10倍近い社員が働いていたのですが、とにかく会社員が忙しく動き回っておりました。私が日本新聞印刷に入社したのは数年後の時で、私はまだ中学校を卒業したばかりでした。「少しでも早く会社の役に立ちたい」との想いで職人さん達のもとで必死に仕事を覚えました。「文選３年、植字７年」当時の印刷会社で一人前になるためには最低でも10年は腕を磨く必要があると言われておりました。

Q：なぜ稲垣社長は日本新聞印刷に入社されたのでしょう？社長の道を決断したきっかけなどについて教えてください。

とにかく早く働いて、家にお金を入れたい。それこそが私が日本新聞印刷に入社した一番の理由です。

小学６年の夏、私は疎開先の山形で終戦を知りました。東京大空襲後、10月に移転いたしました。亀戸にあった家が焼け、両親と４人の姉弟は雪山の父の実家に移っていたのですが、富山の空襲で全員が亡くなりました。私は山形にいたので無事でした。戦災孤児となった私は戦後間もなく、隣にある母方の親戚の家に引き取られました。親戚の援助のおかげで私は旧制中学に入学することができました。中学を卒業したらすぐに働いて親戚に恩返しがしたいと強く思い、実際に中学卒業後、私は日本新聞印刷に就職しました。入社初日からとにかく一生懸命働き、会社から支給された全ての給料を親戚にお世話になった期間中ずっと渡していました。結婚してからは家族のために働きました。休日はいつも家族サービスです。仕事で大変なことがあった時も、家族のことを思い出すだけで力が湧いてきて、どんな困難も乗り切ることができました。社長就任の要請があった際も、私はまず家族に相談をしました。「命までは取られないでしょうから受けてみたら」妻のその一言で私は日本新聞印刷の社長になることを決めました。

Q：稲垣社長がいままで大変だったことは。

日本新聞印刷での私の職場は、雑誌製版部での文選工、植字工を経て、制作部の工程、そして営業部の順で所属しておりました。思い返せば私が各部署に異動になった時というのは会社の転換期と重なっていたことが多かったですね。営業部には仕事が減る中での配属であったこともあり、私は営業という仕事を経理上の細かい部分まで見直し、その改善に励みました。その後先代の社長から次期社長就任を頼まれました。深く悩み考えた末、私は一度、社長就任を断りました。社長になることでより忙しくなってしまい、家族に負担を掛けてしまうことと、抱えていた仕事をおざなりにして、お客様にご迷惑を与えてしまうことを避けたかったからです。そ

入社してから70年の歴史を語る稲垣社長

れから2年後、再度社長就任の要請を受けました。今度は妻の一言もあり、潔く要請を受け入れ、いざ社長に就任したわけですが、正直に申しますとその時点で会社は厳しい状況になっておりました。その状況を脱出しないと、家族と従業員、さらにはお客様に非常に大きな迷惑が掛かってしまいます。何とか日本新聞印刷を存続させていかなければならない。そして初代社長の時代からずっと変化のなかった時代錯誤の旧社内制度を刷新し、日本新聞印刷の経営建て直しに尽力しました。

Q：稲垣社長の仕事への原動力は何でしょうか。

家族と社員、そしてお客様の笑顔が私の原動力です。ちなみに私は元来プラス思考で何でも楽しむ方向に物事をもっていきます。仕事でのトラブル等、嫌なことや困難はその全て明日への糧と考え、新しいことを恐れずにチャレンジをして生きてきました。これからもどんな新しいことに挑戦したいですね。

Q：稲垣社長が日本新聞印刷で働いていて嬉しかったこと、感動したことは何ですか。

社員が明るく元気で働いている姿を見ているとき、社員が社員旅行で仲良く楽しんでいる姿を見ているとき、社員が仕事を頑張っている姿をお客様から2年後、再度社長就任の要請を受けました。今度は妻の一言もあり、潔く要請を受け入れ、いざ社長に就任したわけですが、正直に申しますとその時点で会社は厳しい状況になっておりました。その状況を脱出しないと、家族と従業員、さらにはお客様に非常に大きな迷惑が掛かってしまいます。何とか日本新聞印刷を存続させていかなければならない。そして初代社長の時代からずっと変化のなかった時代錯誤の旧社内制度を刷新し、日本新聞印刷の経営建て直しに尽力しました。

Q：稲垣社長の仕事への原動力は何でしょうか。

家族と社員、そしてお客様の笑顔が私の原動力です。ちなみに私は元来プラス思考で何でも楽しむ方向に物事をもっていきます。仕事でのトラブル等、嫌なことや困難はその全て明日への糧と考え、新しいことを恐れずにチャレンジをして生きてきました。これからもどんな新しいことに挑戦したいですね。

Q：稲垣社長が日本新聞印刷で働いていて嬉しかったこと、感動したことは何ですか。

社員が明るく元気で働いている姿を見ているとき、社員が社員旅行で仲良く楽しんでいる姿を見ているとき、社員が仕事を頑張っている姿をお客様から評価され、信頼されていることを実感したとき私は本当にうれしいです。私にとって日本新聞印刷の社員は私の家族そのものです。

Q：尊敬する方や心に残るお本はありますか。

私自身の体験を踏まえ、どんな理由があっても戦争だけは絶対にやってはいけないと考えております。そして徳川家康や勝海舟といった平和な世の中にしようと行動を起こした歴史上の人物を私は尊敬しています。

Q：稲垣社長の一番大切なものは何ですか。

もちろん家族です。これは私の持論ですが、家庭がしっかりしていない人は仕事もしっかりしておりません。

Q：日本新聞印刷の目指している将来像についてお聞かせください。

会社が創業してから今日までの間、私は日本新聞印刷の全ての歴史を見てまいりました。そして今の日本新聞印刷には史上最高の人材が揃っています。私はこれからも日本新聞印刷をどう発展させていってくれるのかが楽しみで仕方ありません。これから先も紆余曲折あるとは思いますが、私の想いが彼らに受け継がれ、これまで以上に明るく楽しく仕事ができる職場になってくれることを望んでいます。厳しい時代と言われてはおりますが、75年前の日本に比べたら全然厳しくありません。私は私の会社の社員全員を心から尊敬し、心から信頼しています。彼らがこれからの未来は明るいでしょう。日本新聞印刷で私が社長をしている限り、私は彼らを全力でサポートしていきます。

昭和41年の日本新聞印刷社員名簿

日本新聞印刷六十五年間の歩み

日本の出来事

昭和28年 ■ＮＨＫテレビ放送開始
■奄美群島がアメリカから返還
昭和29年 ■自衛隊設置
昭和31年 ■日ソ国交回復
■国際連合加盟
昭和32年 ■関門トンネル開通
昭和33年 ■東京タワー完成
昭和35年 ■日米新安全保障条約調印
■カラーテレビ放送開始
■ベトナム戦争
昭和39年 ■東海道新幹線開業
■東京オリンピック開催
昭和44年 ■東大安田講堂事件
■アポロ11号人類初月面着陸成功
昭和45年 ■よど号ハイジャック事件
■大阪万博開催
昭和48年 ■第一次オイルショック
昭和51年 ■ロッキード事件
昭和52年 ■第二次オイルショック
■成田空港開港
■日米平和友好条約締結
昭和57年 ■ＣＤプレーヤー発売
昭和58年 ■東京ディズニーランド開園
■ファミリーコンピューター発売
昭和61年 ■英チャールズ皇太子とダイアナ妃来日
■上野動物園ジャイアントパンダのトントン誕生
■昭和天皇崩御
昭和64年 ■平成に改元
平成元年 ■消費税施行
■金融機関の週休２日制スタート
平成７年 ■阪神淡路大震災
■地下鉄サリン事件
平成18年 ■神戸空港開港
■表参道ヒルズオープン
平成24年 ■東京スカイツリー完成
平成28年 ■英国民投票でＥＵ離脱派勝利

日本新聞印刷の出来事

昭和28年 ■全国新聞情報農業組合連合会より工場建物機械設備一式を買収し、資本金５拾万円にて株式会社日本農業新聞印刷所を設立
昭和29年 ■資本金壱百万円に増資
昭和31年 ■資本金四百万円に増資
昭和32年 ■日本新聞印刷株式会社に改称
昭和35年 ■資本金九百万円に増資

昭和57年 ■港区芝浦４丁目17番11号に本社ビルを建築移転
■ＳＳＣオフセット新聞輪転機導入
昭和58年 ■資本金壱千八百万円に増資
昭和61年 ■ＮＥＣ電算写植システム「ＮＥＰＲＯＳ―50」導入

平成７年 ■ＤＴＰ新聞組版システム「ＳＵＰＥＲＤＩＧＩＴＯＲＩＡＬ」導入
平成18年 ■ＣＴＰシステム導入
平成28年 ■オンデマンド印刷機導入